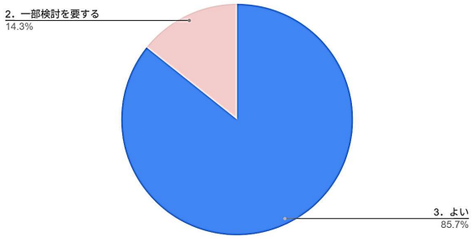
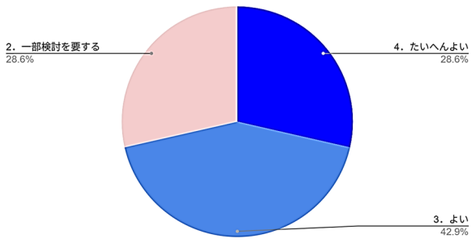
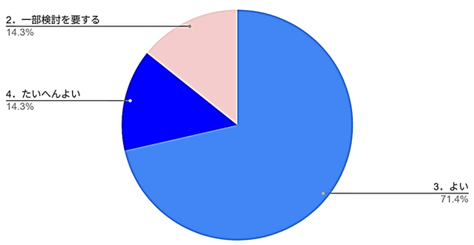
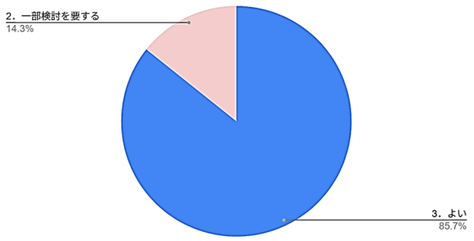
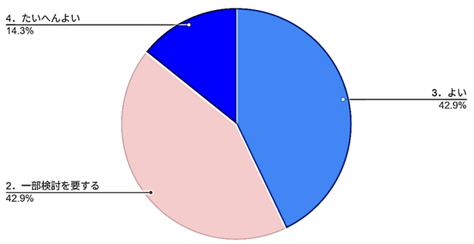
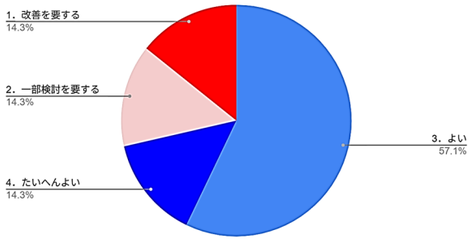
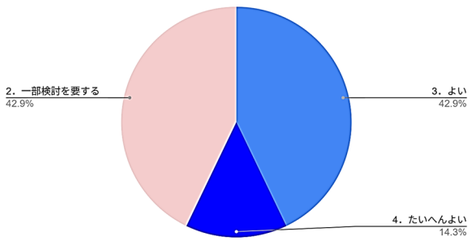
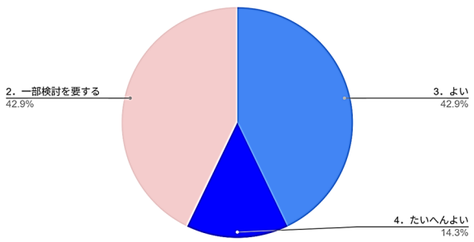
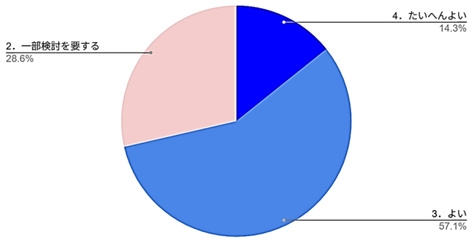
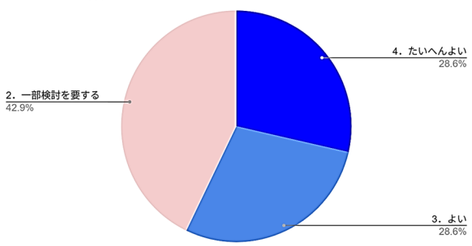
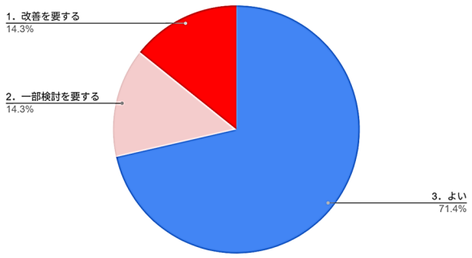
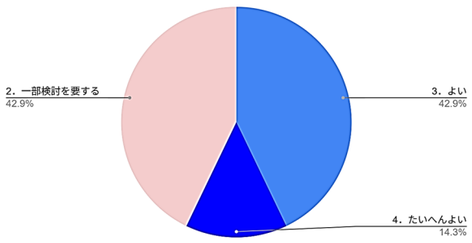
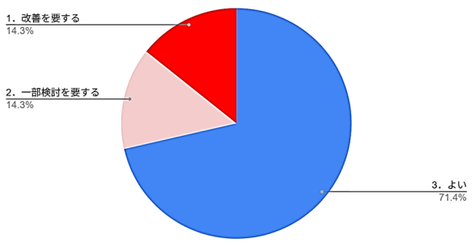
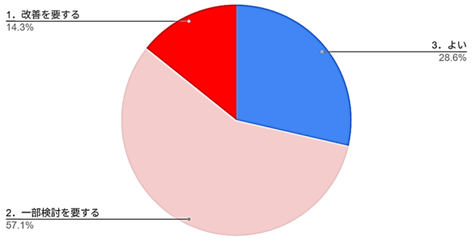
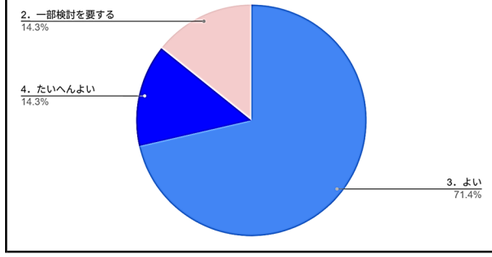
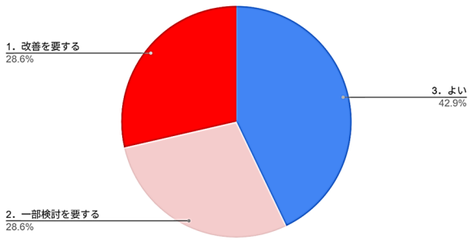
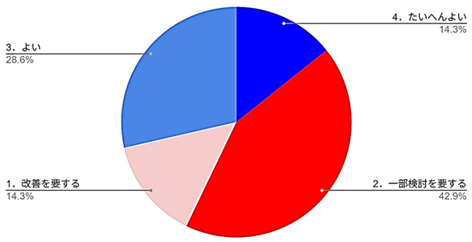
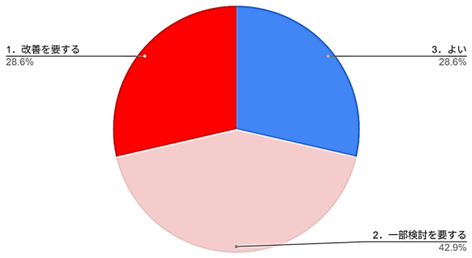
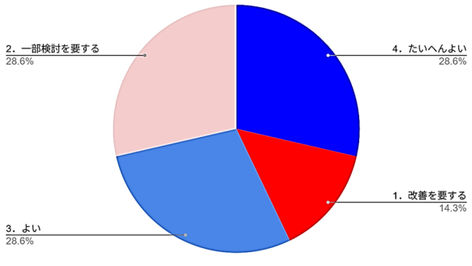
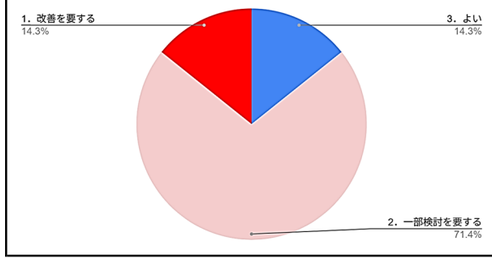
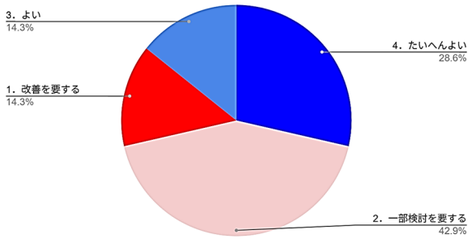
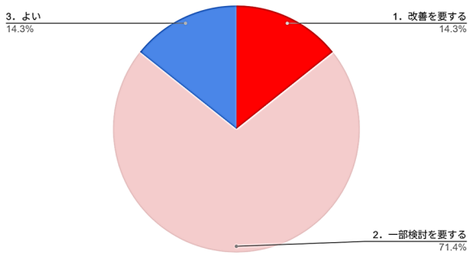
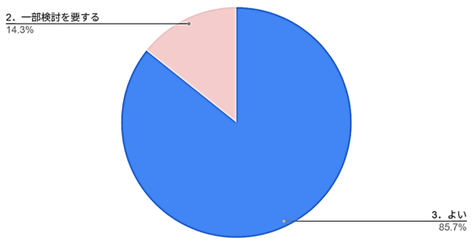
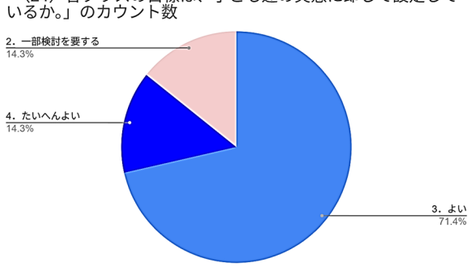
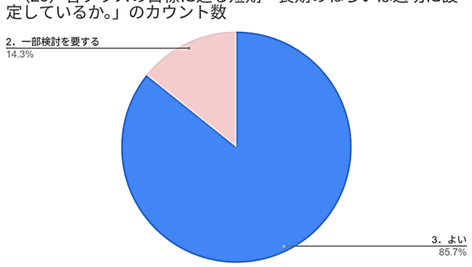
令和７年度 若狭浦保育所評価（職員自己評価）集計結果　　2026.2月実施

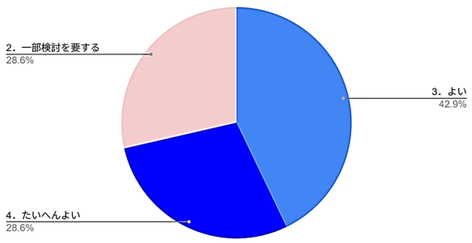
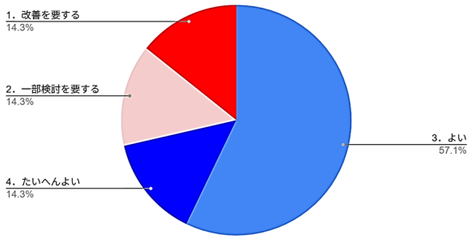
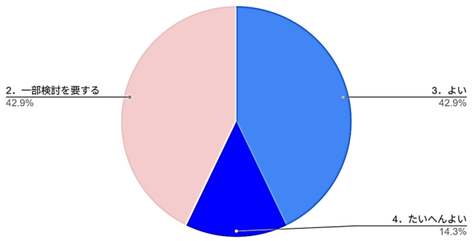
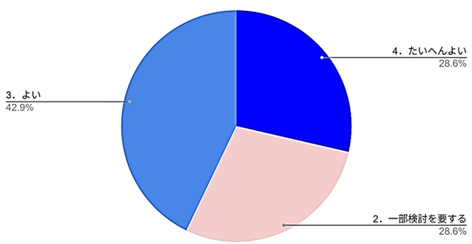
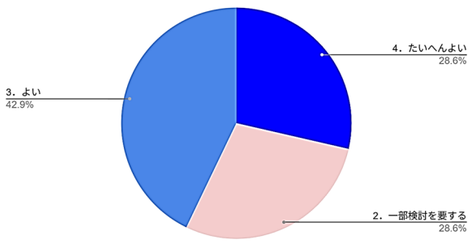
「(1) 保育目標の具現化に向け、子ども達の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。」のカウント数 	・進級に向けた活動をはじめ、クラス毎ではなく全体ですり合わせた上で目標を設定した方が良いと感じる。 ・子ども一人ひとりの生活環境を把握し、発達段階や個々にあわせた成長の援助を行っている
「(2) 保育目標は、保育所や地域の特色を生かしているか。」のカウント数 	・保育所や地域の特色を活かした目標設定がなされている。今後は、子どもの姿や地域とのつながりがより具体的にイメージできるよう、目標の内容をさらに明確にしていくと、より実践に結びつくものになると考える。 ・自然豊かな環境で公園や海に近く、姉妹園との交流また地域との関わりで心豊かな成長に繋がっている
「(3) 保育目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。」のカウント数 	・保育目標は社会の要請を踏まえた内容となっているが、保護者の願いについては十分に把握しきれていない部分があると考える。今年度は実施していないが以前アンケートを実施しても「特になし」という回答が多かったり、参加率が低い傾向が見られるため、保護者の思いや期待が具体的に反映されているかについては、さらなる工夫が必要である。アンケート形式に限定せず、日々の送迎時の対話や個人面談、行事後の振り返りなど、複数の方法を通して保護者の思いを丁寧に拾い上げていく。また、自由記述だけでなく選択式や具体例を示した設問にするなど、回答しやすい工夫を行うことで参加率の向上を図る。集約した意見は職員間で共有し、保育目標の見直しや具体化につなげていくことが望まれる。 ・戸外活動・遊びを多く取り入れ、元気なたくましい子になるよう保育活動している
「(4) 保育目標は前年度の反省を生かして作られているか。」のカウント数 	・個人の考えを参考に、園としての目標を定めた方が良いと感じる。
「(5) 事業計画書は子ども達の実態に即して作られているか。」のカウント数 	・時期や保護者参加の必要を見直した方が良いものもある。 ・個々の性格や幅広い月齢には合わないことがあった

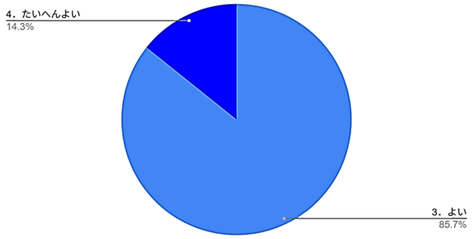
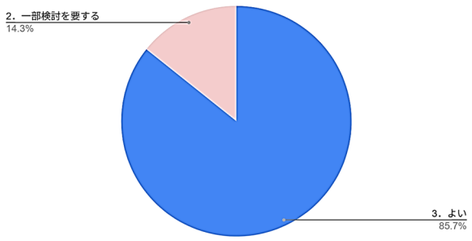
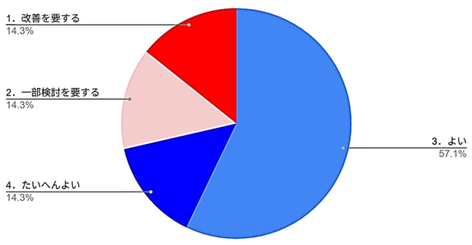
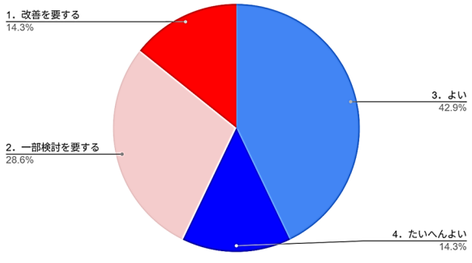
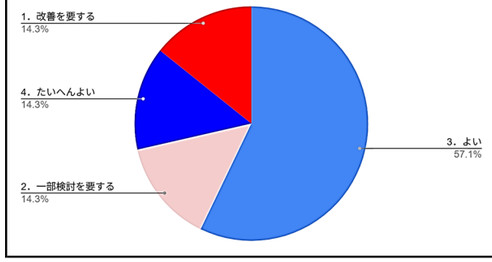
「(6) 保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。」のカウント数 	・保育所保育指針に基づいた援助・支援を意識して保育を行っているが、実践の中では指示的な声掛けが多くなる場面も見られる。また、保育者主導で活動を進める傾向があり、子どもの主体性を十分に引き出しきれていない部分があると考える。より対話的な関わりを意識し、子ども一人ひとりの思いや気づきを尊重した援助へと高めていく必要がある。改善方法としては、指示や命令の言葉掛けを見直し、「どうしたい？」「どう思う？」など、子どもの考えを引き出す対話的な声掛けを意識する。日々の保育を振り返る機会を設け、援助が保育者主導になっていないかを職員間で共有・検討する。また、環境構成を見直し、子どもが自ら選び、試し、考えられる場面を増やすことで、子ども主体の保育への移行を図っていく。 ・子どもにわかりやしい言葉を使い、理解しているかを表情を見ながら応対し子どもに考える時間を与え、言葉を引き出している
「(7) 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。」のカウント数 	・物的環境、保育室の環境がなかなか整えられていない。 ・環境構成を意識した保育を行っているが、活動の充実が保育者の声掛けや援助に偏る場面もある。子どもが自ら選び、考え、試すことができる環境となっているかを継続的に見直す必要がある。子どもの姿を基にコーナー配置や素材の提示方法を再検討し、環境そのものが子どもに働きかける構成へと工夫していく。定期的に職員間で環境の見直しを行い、発達や興味に応じた柔軟な変更を心がける。 ・環境作りを常に考え安心安全に保育に努めるように工夫している
「 (8) 素材・用具を適切に活用しているか。」のカウント数 	・画用紙・のり・はさみ等の製作に必要な素材や用具については適切に活用できている。一方で、室内玩具や砂場用具については種類や数に偏りが見られ、遊びの広がりや子どもの主体的な選択につながりにくい場面もある。素材・用具の構成については、さらなる工夫が必要である。玩具や砂場用具の種類・数・発達への適合性を見直し、遊びが広がる組み合わせやバリエーションを意識的に整えていく。同じ用途の用具が偏らないよう整理するとともに、子どもの興味や遊びの姿をもとに入れ替えや補充を行う。また、自然物や廃材なども取り入れ、素材の多様化を図ることで、創造性や主体性を育む環境へと改善していく。委員会活動を利用して、月一の環境構成の時間が必要と考える。 ・感触遊びを照り入れることは、指先をよく使い五感を働くよい機会。季節を感じる物を製作していきたい。
「(9) 評価結果を基に、保育の改善に努めているか。」のカウント数 	・日々の保育については、毎日反省・評価を記録し、改善に努めている点は評価できる。しかし、クラス担任だけでなく、共に保育に入るフリー保育士との十分な話し合いの時間が確保できておらず、振り返りや改善点の共有が十分とは言えない部分がある。保育の質をさらに高めるためには、クラス全体での共通理解が必要である。短時間でも定期的に振り返りの時間を設け、クラス担任とフリー保育士を含めた全体での共有を行う。子どもの姿や課題、効果的だった援助について意見交換し、改善点を具体的に次の保育へつなげていく仕組みを整える。個人の振り返りをチームの振り返りへと発展させることで、より一貫性のある保育の実践を目指す。週1回は、連絡帳などをお休みして話し合いの日にして時間を確保する。連絡帳の内容の部分をお休みの日は降所時にしっかり今日の様子を伝える。 ・自分に何が足りないのか再度確認することもできとてもよい。
「(10) １日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよいか。」のカウント数 	・子どもの発達に応じ、3ヶ月程度を目安に見直す必要があった。 ・年間のデイリープログラムを基にしながら、進級直後の前半と進級に向けた後半、また季節に応じて休息時間を調整するなど、子どもの発達や状況を踏まえた柔軟な運用ができている。さらに、保護者から「夜なかなか寝ない」との声があった際には、午睡の時間や起床時間を見直すなど、家庭との連携を意識した対応も行っている点は評価できる。 一方で、個別対応と全体の生活リズムとのバランスについては、園としての方針を整理しながら検討していく必要がある。子どもの発達段階や季節、活動量を踏まえたデイリープログラムの見直しを継続するとともに、午睡時間の調整については園全体で共通理解を図る。家庭からの声を丁寧に受け止めつつ、園生活における適切な生活リズムの在り方を職員間で検討し、根拠をもった対応ができる体制を整えていく。 ・その子たちに合った流れを都度話し合い工夫をしていく ・ゆったりした流れで、子どもと向き合える時間があひとても良い

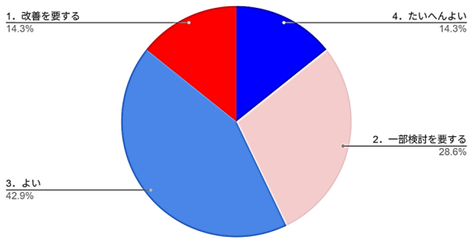
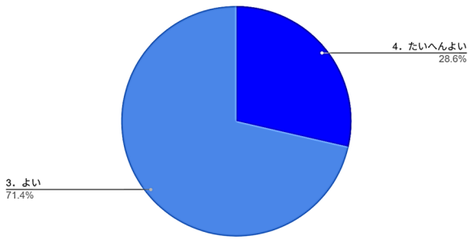
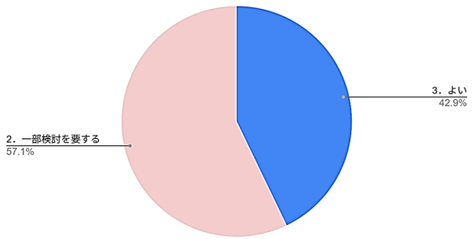
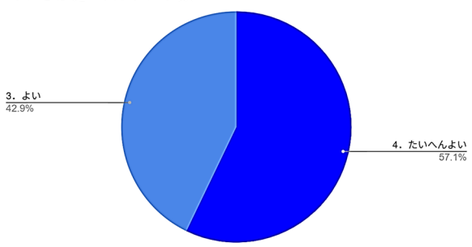
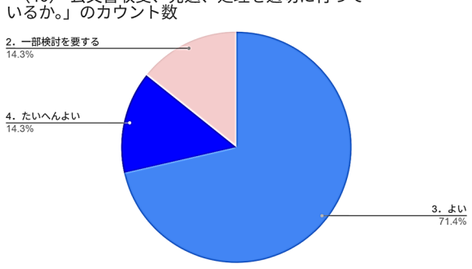
「(11) 行事の種類や実施回数は適切か。」のカウント数 	・行事の回数は適切だかスパンが短い気がする ・内容や保護者参加の必要性の有無を検討しても良いと感じる。 ・行事の種類や実施回数については、多すぎることも少なすぎることもなく、概ね適切に設定されていると考える。年間計画に基づき、園の教育・保育目標に沿った行事が実施されている点は評価できる。 一方で、子どもの実態やその時々の育ちに応じて、より効果的に取り入れたい行事や活動もあるため、固定的に捉えるのではなく、柔軟な見直しが必要である。年間計画を基盤としつつ、子どもの興味・関心や発達の姿を踏まえ、行事の内容や位置付けを検討する機会を設ける。行事の実施そのものを目的とするのではなく、日々の保育とのつながりを意識しながら、必要に応じて内容の精選や新たな取り組みの導入を図っていく。子どもの実態に合わせて、「年間行事にはないが、このような実態があるので今回こういう行事を入れてみてはどうか？」という提案して入れていくのもよいのではないかと考える。 ・保護者を巻き込んだ行事を増やしてもいいと思う。 ・途中入職でまだ経験してないものもあるが、保護者が子どもの成長した姿をお見せできる行事は大切！
「(12) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。」のカウント数 	・生かせていない。 ・行事のねらいは年間計画や指導計画に位置付けられ、保育の中で意識して実施している。しかし、行事の目的や意味が子どもに十分に伝わっていないと感じる場面もあり、「何のために行うのか」という理解が深まらないまま参加している姿も見られる。ねらいを職員が理解するだけでなく、子どもにとっても分かりやすい形で共有していく工夫が必要である。① 行事前の導入を丁寧に行う ・写真や絵カード、実物を使いながら「これは何をする日か」「どうしてやるのか」を年齢に応じた言葉で伝える。 ・「〇〇ができるようになるためだよ」「みんなで力を合わせる日だよ」など、ねらいを一言で表現する。② 日常保育とつなげる ・行事に向けた活動を日々の遊びの中に組み込み、「今日は〇〇の練習だね」と意識付けをする。 ・練習や準備の中で「今どんな力を使っているか」を言語化して伝える。③ 行事後の振り返りを必ず行う ・「何が楽しかった？」「どんなことができた？」と具体的に問いかける。 ・写真を見ながら話す時間を設け、経験を再確認する。 ・保育者がねらいに沿って「〇〇できるようになったね」と成長を言葉にする。④ 職員間でねらいを再確認する ・行事前に「今回のねらいは何か」を短時間でも共有する。 ・実施後に「ねらいは達成できたか」を具体的な子どもの姿で振り返る。 ・行事に向けて、保育者・子どもたちが一体となって取り組んでいる事が楽しくて良い
「(13) 子ども達の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。」のカウント数 	・子ども達の活動範囲については十分に明確とは言えず、改善が必要である。広い園庭を活用できている一方で、全クラスが同時に使用する際に、サッカー・三輪車・砂遊びの場所が重なっていたり、虫探しとブランコの活動範囲が近接していたりと、安全面や遊びの集中という点で課題が見られる。また、砂場用具の数が少ないことに加え、片付け場所が視覚的に示されていないため、整理が十分に行われず、環境が整いにくい状況がある。園庭の活動エリアを見直し、用途ごとに大まかなゾーニングを行う。固定的に決めるだけでなく、クラス人数や活動内容に応じて柔軟に調整できる仕組みを整える。また、砂場用具については、数や種類を再検討するとともに、写真やイラストを用いた片付け表示を設置し、子ども自身が整理できる環境を構成する。 さらに、保育士全体で定期的に園庭や用具の使い方を話し合い、共有した内容を基に環境改善を進める。特に砂場用具については、委員会活動の中で環境構成を検討し、園全体で統一した取り組みへと発展させていくことが望ましい。 ・見守りしつつ一緒に遊んでいると目を離した瞬間に別の子が転倒するなどがあるため、遊具遊びを規制してしまう。
「(14) 計画・実施・評価・改善（PDCA）の体制をとっているか。」のカウント数 	・計画を計画を早めに行う。計画内容の詳細（役割分担など）を細かく行い共有していく。振り返りをしっかりと行い反省点を次回に繋げていく。 ・子どもの実態に応じて柔軟に変更するようにしている。 計画・実施・評価・改善の流れは意識されており、評価や改善については全体ミーティングの中で共有する機会が設けられている。しかし、計画段階での全体周知が十分でないことがあり、共通理解が図られないまま実施に移る場面も見られる。PDCAが形式的な流れにとどまらず、組織として機能する体制づくりが課題である。リーダーミーティングには主任または所長が必ず参加し、決定事項や計画内容を確認する体制を整える。その後、各クラスリーダーが自クラス職員へ確実に情報共有を行う。また、当日欠勤していた職員については、主任が責任をもって伝達する仕組みを確立する。 さらに、行事前には必要に応じて緊急ミーティングを設定し、その行事に特化した内容の確認・役割分担・留意事項の共有を行う。これにより、計画段階から実施までの共通理解を徹底し、組織として機能するPDCA体制を強化していく。 ・できなかった事ができるように持っていきたいものがあるが１度きりで終えてしまうことがある
「(15) 保護者の願いや意見を取り入れているか。」のカウント数 	・家庭での困りごとが減るよう、食事のマナーや散歩時のルールを伝え、子どもに理解してもらえるように取り組んでいる。 ・今年度は年2回の個別面談や懇談会を実施したことで、保護者の願いや意見を直接聞く機会が確保され、家庭の思いや期待を把握しやすかった。対話を通して子どもの姿を共有することで、保護者の考えを保育に反映させる基盤づくりができていると考える。 ・衣服の調整や皮膚の症状で軟膏塗布日々行っている。

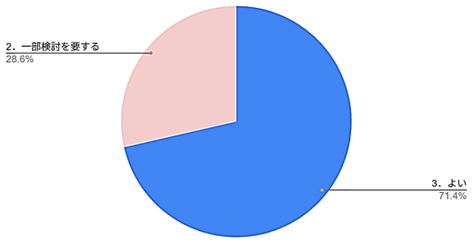
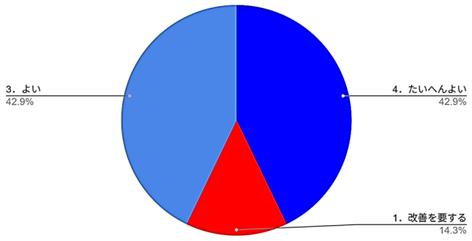
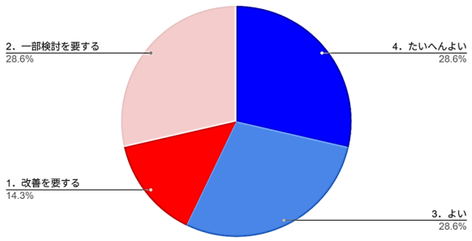
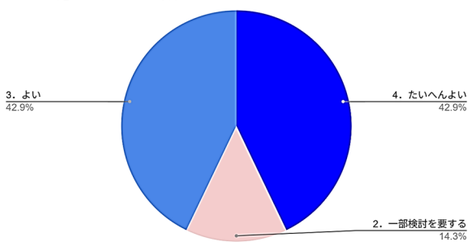
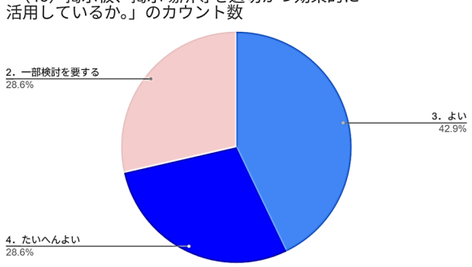
「(16) 能率的、合理的な運営組織になっているか。」のカウント数 	・職員不足もあった為、来年度は各々の配置でしっかり動けるようにしていく。　・報連相確が上手くいっていない。 ・分掌や体制は整えられているものの、役割や責任の所在が十分に明確とは言えず、「誰に伝えればよいのか」が曖昧になる場面が多く見られた。また、会議内容の周知が徹底されていないことがあり、情報共有の仕組みに課題がある。会議については時間が長くなる傾向がある一方で、その場で明確な決定に至らないことも多く、効率的・合理的な運営とは言い難い部分がある。さらに、児童票・引継ぎ書類・個人面談表などに内容の重複が見られ、書類削減の方向性とは逆に業務負担が増えている印象がある。組織としての明確な体制づくりと業務の整理が必要である。① 役割と責任の明確化 ・分掌内容を再確認し、「最終責任者」「連絡窓口」を明示する。・各業務に担当者を明確に位置付け、一覧表にして共有する。② 情報共有の仕組みの整備 ・会議後は必ず記録を残し、共有フォルダや掲示で周知する。・欠勤者には主任が確実に伝達する体制を徹底する。・「共有済み」の確認方法を明確にする。③ 会議の効率化 ・事前に議題を提示し、目的を明確にする。・決定事項・担当者・期限をその場で必ず決める。・時間を区切り、結論を出す意識を持つ。④ 書類の整理・統合 ・児童票・引継ぎ書類・個人面談表の内容を精査し、重複部分を統合する。・「何のための書類か」を再確認し、不要な項目は削減する。・書類削減を目的とした検討会を設ける。④については、ぜひ改善してほしい。 ・今回の新入園児面談を行うにあたって、直前に割り振りがあると困る。日時に余裕をもって内容を下ろして欲しい
「(17) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。」のカウント数 	・明確になっていない部分もある中、明確化に取り組んでいる為その姿勢を大切にしていく。また、互いの立場や特性を理解し、協力し合える環境を整えていく。 ・報連相が一部のみで止まっていることが多い
「(18) 職員の配置は適材・適所か。」のカウント数 	・足りていない部分もある為、お互いで話し合い協力していけるようにしていく。 ・分からない。 ・保育の考えが合わない、うまく伝えようとしてもその人の保育概念を押し通される、互いに歩み寄る事も必要だと感じる
「(19) 係や仕事の分担・割り当ては適切か。」のカウント数 	・リーダーひとりがではなく、自分事と考えお互いで協力していけるようにしていく。 ・中には普段が大きいと感じている職員もいると思う。 ・１人のみに責任を負わせない、みんな協力的で早い
「(20) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。」のカウント数 	・時間を守り、進めていけるようファシリテーター、議事録、タイムキーパーなど役割を決めて行う。 ・時間内に終え、話が脱線しないようにする。 ・各種会議は定期的に実施されているが、時間が長くなる傾向があり、議論が十分に整理されないまま終了することがある。また、会議の中で明確な決定事項が出ないこともあり、効率的な運営とは言い難い部分がある。目的と結論を意識した進行が課題である。① 会議の目的を事前に明確化する ・議題と到達目標を事前に提示する。・「今日は何を決める会議か」を明確にする。② 時間管理を徹底する ・議題ごとに時間を設定する。・司会進行役を明確にし、話題が逸れた場合は整理する。③ 必ず結論を出す仕組みをつくる ・「決定事項」「担当者」「期限」をその場で決める。・決まらない場合は「次回までに誰が何をするか」を明確にする。④ 記録と共有を徹底する ・会議録を簡潔にまとめ、全職員へ共有する。・欠席者へのフォロー体制を整える。 ・職員が足りてないと会議自体ができなかったりする ・午睡時間の主題から外れることがあり午睡時間では終わらない

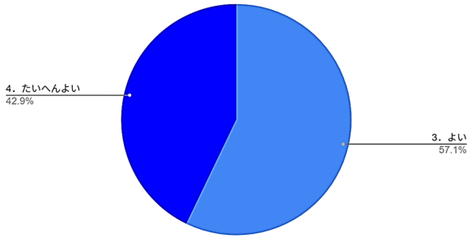
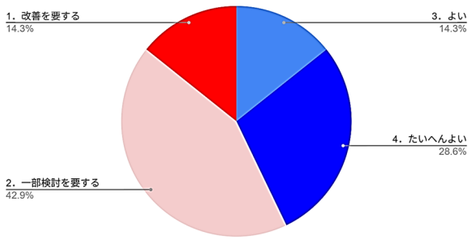
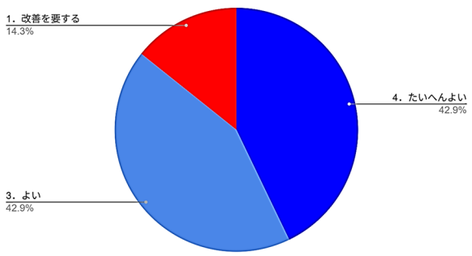
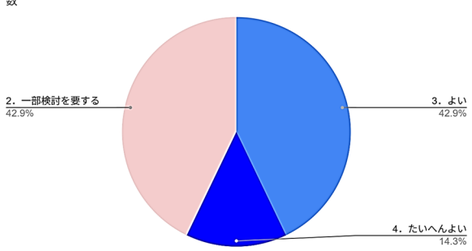
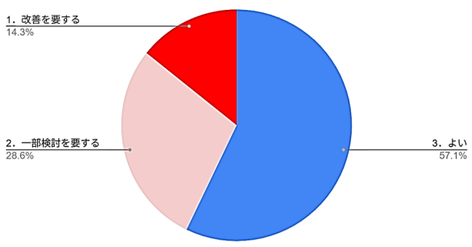
「(21) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。」のカウント数 	・職員間で協力しながら施設運営に関わろうとする姿勢は見られるが、助言や意見の発信においては経験年数の長い職員に偏る傾向がある。後から入職した職員や経験年数の浅い職員は、遠慮や自信の不足から積極的に助言を行う姿が十分とは言えない場面も見られる。全職員が全体的立場を理解し、主体的に関われる体制づくりが課題である。会議では順番に意見を求める時間を設ける。経験年数に応じて、年数の長いチームと短いチーム＆後から入ってきた職員グループワークをするのもいいのでは？ ・クラスによって考えた活動内容・時間で動いても他クラスから違う見方されるとやりづらい
「(22) 打合せ回数、時間、内容は適切か。」のカウント数 	・会議は定期的に実施されているが、同じ内容を繰り返し検討する場面が見られ、「その後どうなったのか」と再確認することが多い。会議の中で十分な結論に至らないまま終了することがあり、決定機関としての機能が十分に発揮されていない点は改善が必要である。① 会議の役割を明確にする ・「今日は何を決定する会議か」を事前に明示する。 ・議題ごとに"結論を出す"ことを前提に進行する。 ・終わりの時間を決めてすぎないようにして欲しい ・決まった話を数回行うこともある。時間がもったいない
「(23) 各クラスの目標は、保育所全体の保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。 」のカウント数 	・個々に合わせた発達段階もあり、保育所全体には届かない
「(24) 各クラスの目標は、子ども達の実態に即して設定しているか。」のカウント数 	—
「(25) 各クラスの目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。」のカウント数 	・各クラスの目標は設定されているが、長期目標と短期的なねらいとの関連が十分に整理されていない部分がある。活動や行事ごとのねらいが単発にならないよう、年間を通した見通しをより明確にする必要がある。年度当初に長期的な目標を具体的な子どもの姿で共有し、月案・週案作成時にはその目標との関連を確認する仕組みを設ける。定期的に振り返りを行い、短期ねらいが長期目標に向かっているかを検証し、必要に応じて修正していく。

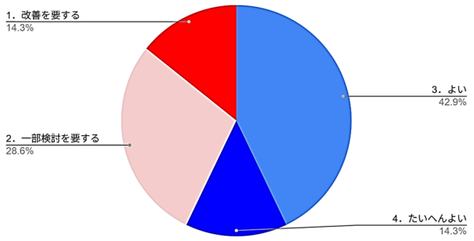
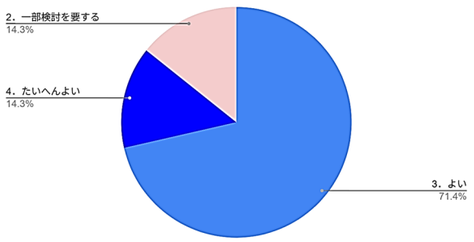
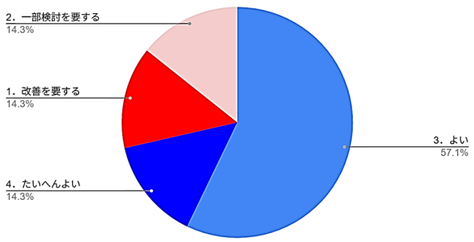
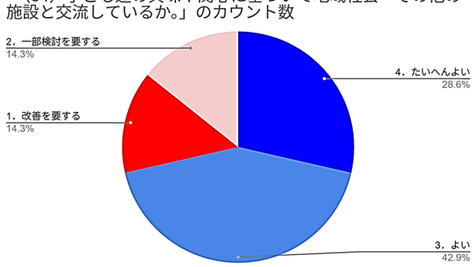
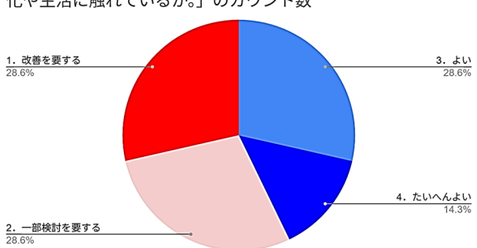
「(26) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。」のカウント数 	・各クラスの活動だけではなく、全クラスを巻き込んでの活動も増えていた為良かったと感じる。 ・遊び以外の場面でも関わりが持てたらよかった。 ・同年齢児間での活動は充実しているが、異年齢児との活動については、デイリープログラムの違いにより調整が難しく、十分に実施できない場面もある。時間帯や生活リズムの違いが影響し、計画しても実現に至らないことがあるため、工夫の余地があると考える。異年齢交流を特別な活動として構えるのではなく、短時間でも可能な関わりや合同で行える活動を検討する。また、年間計画の段階で交流の時期や内容をあらかじめ位置付け、各クラスのデイリープログラムとすり合わせを行う。無理のない範囲で継続的に関われる方法を模索していく。 ・戸外活動やクラスに行くことで交流ができ、安心して登所できることにもつながっている。
「(27) 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。」のカウント数 	・お互いでの声かけが増えている為良かったと感じる。 ・全クラスが担任一人体制であるため、フリー保育士へクラスのねらいや意図が十分に共有されているかについては課題がある。クラスによっては意識的に共有しているが、全体として統一された体制とは言い難い状況である。また、子どもへの声掛けにおいても一貫性が十分ではなく、場面によっては否定的な関わりが見られることもある。チームとしての方向性の共有と関わりの質の向上が必要である。① ねらいの可視化 ・その日のねらいをホワイトボードや共有ノートに記載し、フリー保育士も確認できるようにする。 ・週案や月案の要点を簡潔にまとめ、共有する。 ② 短時間の打ち合わせの徹底 ・保育前後に5分程度の確認時間を設ける。 ・その日の重点援助や気になる子への対応を共有する。 ③ 声掛けの共通理解 ・否定的な声掛けの例と、望ましい言い換え例を職員間で共有する。 ・研修やミーティングで「保育の言葉掛け」をテーマに振り返る機会を設ける。 ④ チーム保育の意識づけ ・担任だけでなく、クラス全員がその日の目標を意識できる体制を整える。 ・フリー保育士も含めた振り返りの場を定期的に設ける。
「(28) 評価、資料(諸記録）を集積しているか。」のカウント数 	・評価や諸記録については作成しているものの、集積や整理の方法が統一されておらず、クラスや担当によって差が見られる。記録が十分に活用されている場合もあれば、保管や共有が不十分な場面もあり、園全体として一貫した体制とは言い難い状況である。記録を「書いて終わり」にせず、組織として活かせる仕組みづくりが課題である。① 記録様式と保管方法の統一 ・保存場所（紙・データ）のルールを明確にする。 ・フォルダ構成やファイル名の付け方を統一する。 ② 集積の見える化 ・「どの記録がどこにあるか」を一覧化する。 ・月ごと・行事ごとに整理する仕組みを整える。 ③ 記録を活用する仕組みづくり ・会議で記録を基に振り返る時間を設ける。 ・PDCAの「C（評価）」と連動させる。 ④ 定期点検の実施 ・学期ごとに記録の整理状況を確認する。 ・不足や重複を見直す。 ・中途半端に終わってしまうことがあるので最後まで責任をはたす
「(29) クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。」のカウント数 	・視診、手洗い換気、清掃など留意している。
「(30)　避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。」のカウント数 	・振り返りを行い、次回に繋がる話し合いがもっと持てるといいと感じる。 ・防災バックの中身や食料の置き場所、保護者への連絡方法なども含め、もう少し実際を想定した内容で実施した方が良いと感じる。 ・戸外活動や避難訓練等がある際には子ども達と約束事を振り返っている。 ・活動時間・午睡時間・夕方などいつどこでどんな時に起きても対応できるようにしっかり実施されている

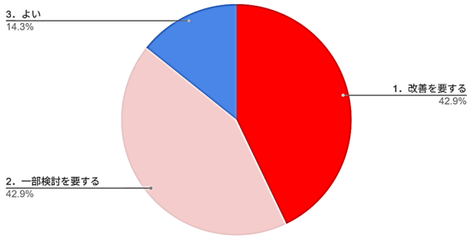
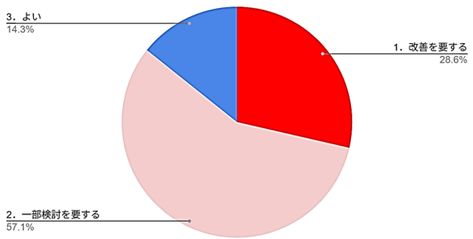
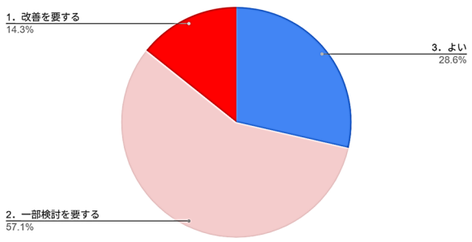
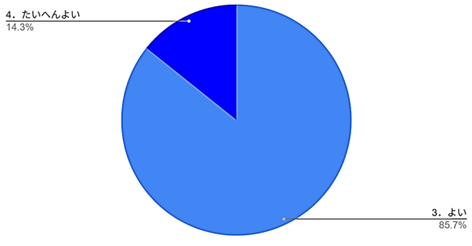
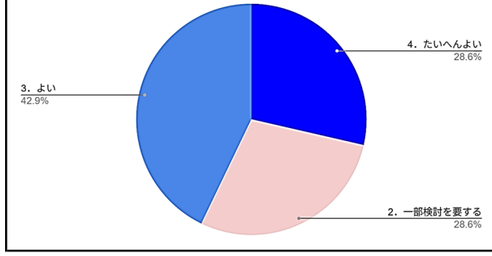
「(31)　健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。」のカウント数 	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度の育成について、園だよりや保健だよりを通して家庭への啓発を行っている。
「(32) 子ども達の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。」のカウント数 	・出来ていない
「(33)　研究主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。」のカウント数 	・出来ていない
「(34)　所内研修の計画・運営は適切か。」のカウント数 	・実施できていない ・所内研修は計画されているものの、全体会議と同時に実施しているため、会議の延長により研修時間が確保できないことがある。結果として、研修が十分に実施できない、あるいは内容が縮小される場面も見られる。計画はあるが、運営面に課題がある状況である。全体一斉での研修にこだわらず、チームごとに時間を分けて実施する方法を検討する。少人数で行うことで意見交換がしやすくなり、実践的な学びにつなげやすい利点がある。また、日程を分散することで時間超過を防ぎ、研修内容を確実に実施できる体制を整える。
「(35) 研究の成果を日常の保育に生かし、子ども達の育ちに反映させているか。」のカウント数 	・出来ていない

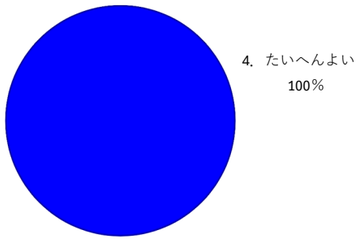
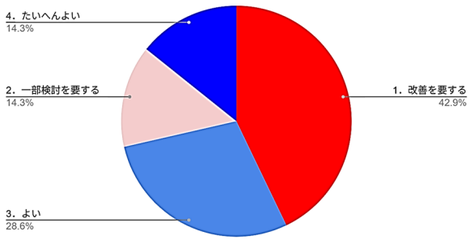
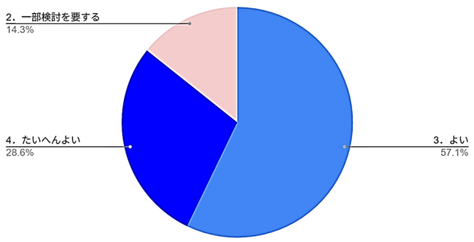
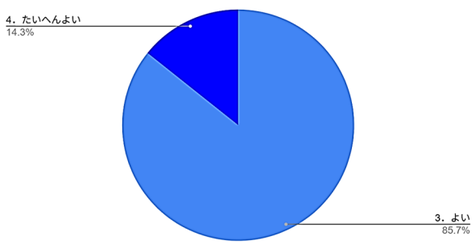
「(36) 研究の実践による子ども理解が深まりを見せているか。」のカウント数 	・出来ていない ・研修を行う事で自分自身の考えは幅が広がり保育に繋がっている。
「(37) 各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。」のカウント数 	・職員の希望に沿ってキャリアアップ研修を受講させてくれる等の配慮があった。
「(38) 各種研究会、研修会、講習会での内容を所内に還元しているか。」のカウント数 	・出来ていない ・各種研究会・研修会・講習会に参加し、内容を所内に還元している研修もあるが、すべてが十分に共有されているとは言い難い状況である。参加者によって報告の方法や内容に差があり、学びが園全体に広がりきれていない場合もある。還元の仕組みをより明確にする必要がある。全体会議やチームミーティングで短時間の報告時間を設ける。園の課題に関わる研修は、重点的に共有・実践化する。
「(39) 子ども達や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っているか。」のカウント数 	—
「(40) 公文書収受、発送、処理を適切に行っているか。」のカウント数 	・分からない

「(41) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。」のカウント数 	—
「(42) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。」のカウント数 	・施設内外および設備の安全点検は、以前は月1回計画的に実施していたが、今年度は定期的な実施が十分に行われていない状況である。日常的な目視確認は行っているものの、計画的・記録的な点検体制としては不十分であり、再整備が必要である。月1回の安全点検日を年間計画に位置付ける。
「(43) 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。」のカウント数 	・必要でないものの処分は早めに行って環境を整えていく。 ・遊具・用具は所定の場所に保管されているが、整理方法が統一されていない部分もあり、活用しやすい環境とは言い切れない状況がある。特に砂場用具や共有遊具については、片付け方が一定せず、使用後に乱雑になりやすい場面も見られる。保育者にとっても子どもにとっても、より使いやすい整理方法を検討する必要がある。① 保管場所の明確化 ・遊具・用具の定位置を決め、写真やイラストで表示する。 ・子どもにも分かる表示を取り入れる。 ② 整理方法の統一 ・収納方法を職員間で確認し、統一する。 ・片付けの基準を明確にする。 ③ 点検と見直し ・定期的に整理状況を確認する。 ・使われていない用具や不足している用具を見直す。 ④ 子ども主体の環境づくり ・子どもが自分で出し入れできる高さや配置にする。 ・片付けも学びの一つとして位置付ける。
「(44) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。」のカウント数 	・不審者対応については、日常的な施錠や来園者確認等の基本的な対策は行っているが、地域の不審者情報が園に十分に届いていない状況がある。情報収集の仕組みが明確ではなく、受け身になっている部分があるため、より周到な配慮体制を整える必要がある。① 情報収集体制の整備 ・小学校が活用している情報配信ツールへの登録を検討する。 ・警察や自治体の防犯メール等に登録し、情報を得る仕組みを整える。 ② 情報共有の徹底 ・受け取った不審者情報は速やかに職員間で共有する。 ・必要に応じて保護者にも注意喚起を行う。 ③ 防犯体制の再確認 ・不審者対応マニュアルの見直しを行う。 ・職員間で役割分担や対応手順を確認する。 ④ 訓練の実施 ・定期的に不審者対応訓練を実施し、実践的な備えを行う。 ・園庭など周囲を確認しながら活動を行っている。
「(45) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。」のカウント数 	・保育所入口の掲示板をもっと活用できると良い

「(46) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか。」のカウント数  	—
「(47) 他施設等との年間交流計画は、保育目標 や課題に添ったものになっているか。」のカウント数  	・実施出来ていない
「(48) 他施設等の幼児や児童生徒と触れ合う中で子ども達が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。」のカウント数  	・実施出来ていない近隣のこども園や施設などとの交流を行う事でこども達の楽しみや刺激に繋がっていたと感じる。 ・出来ていない
「(49) 保こ幼小の指導者同士が、打合せや合同研修、保育・教育参観等を行い、互いの保育・教育に対しての理解を深め、援助について共通理解を図っているか。」のカウント数  	・思うように出来ていない ・年度末の引継ぎの際に交流の機会を設けているが、年間を通した継続的な打合せや合同研修、相互参観の機会は十分とは言えない。結果として、互いの保育・教育の内容や援助方法について深く理解し合う機会が限られている状況である。連携をより計画的・継続的に行う体制づくりが課題である。① 年間計画への位置付け ・年度当初に保こ幼小連携の時期や内容を年間計画に明記する。 ・引継ぎだけでなく、学期ごとの情報交換の機会を設ける。 ② 合同研修・相互参観の実施 ・小学校教員による授業参観、園職員による保育参観など、互いの実践を見る機会を設ける。 ・共通のテーマ（生活習慣・言葉・学びの基礎など）で合同研修を行う。 ③ 情報共有の具体化 ・子どもの育ちや課題について具体的な姿で共有する。 ・「育てたい力」を共通言語で整理する。
「(50) 保育や授業等を参観するなどして、こども園・小学校の教育を理解しているか。」のカウント数  	・こども園との交流は実施されており、一定の相互理解は図られている。一方で、小学校との交流や相互参観の機会は十分に確保されておらず、教育内容や指導方法への具体的な理解は深まっていない状況である。就学前後の接続をより円滑にするためには、小学校との連携強化が課題である。

「(51) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。」のカウント数 	・出来ていない ・日常的な情報交換については、必要に応じたやり取りは行っているものの、継続的・計画的な情報共有の仕組みとしては十分とは言えない部分がある。交流活動と日常的な情報交換が明確に結び付いておらず、活動に十分に生かしきれていない状況が見られる。情報交換をより体系的に行う必要がある。
「(52) 保育参観等、保育所を地域・保護者に広く開放しているか。」のカウント数 	・地域の保護者の相談支援は行えていない ・保育参観は実施しているが、回数が限られており、保護者が日常の保育を十分に見る機会としてはやや少ない状況である。また、地域や保護者に対して保育所を広く開放する取り組みは十分とは言えず、開かれた園づくりの視点では改善の余地がある。① 保育参観の充実 ・年1回に限らず、学期ごとの参観や自由参観日を設定する。 ・短時間参観や少人数制など、負担の少ない形式を検討する。 ・地域行事との連携や作品展示など、無理のない形から始める。
「(53) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。」のカウント数 	・行事の際、役員の方にもっと参加してもらえるようにしたらと良いと感じる ・保護者や地域人材の活用については機会を設けているものの、保護者の参加意欲が十分に高まっているとは言えない状況がある。また、地域にどのような人材がいるのか把握できておらず、計画的な活用には至っていない。地域とのつながりを広げる視点で、体制づくりが必要である。① 保護者参加の工夫 ・役割を小さく具体的に設定する（絵本読み聞かせなど）自治会や児童館と情報交換を行う。
「(54) 子ども達の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。」のカウント数 	・地域社会や他施設との交流は実施しているが、年間計画に基づくものが中心であり、子どもの興味や関心を十分に反映しているとは言い難い部分がある。子どもの姿から出発した交流の工夫が求められる。日々の保育の中で見られる子どもの興味や関心を基に、交流内容を検討する。事前・事後の振り返りを行い、体験を次の活動へとつなげていく。上のクラスは、子ども達と話し合ってもよいのではないか。 ・近くに児童館があるが関わりが少なかった。
「(55) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。」のカウント数 	・出来ていない ・地域の行事への参加については、積極的な取り組みが十分に行われているとは言い難い状況である。また、地域でどのような行事が実施されているのかについての情報が十分に把握できておらず、参加の機会を検討する段階に至っていない。地域とのつながりを広げるための情報収集体制の整備が課題である。自治会や公民館、地域包括支援センター等と連絡を取り、年間行事予定を把握する。 ・自治体の広報誌やホームページ、防災メール等を活用する。

「(56) 地域の子育てセンターとして、園庭や保育室等を開放しているか。」のカウント数 	・開放的ではない ・地域の子育て支援の拠点として、園庭や保育室等の開放は現在実施していない。地域の未就園児家庭との接点は限定的であり、子育て支援機能を十分に発揮しているとは言い難い状況である。地域のニーズを踏まえた取り組みの検討が必要である。
「(57) 地域に住む子ども同士、あるいは親子が一緒に遊ぶことがで… 	・出来ていない ・地域に住む子ども同士や親子が一緒に遊ぶことができる場の設定は、現在実施していない。園として地域の子育て家庭との接点は限定的であり、交流の機会を積極的に提供している状況とは言い難い。地域の子育て支援機能の充実に向けた取り組みの検討が必要である。一時預かりや誰でも通園制度の整備、月一の園庭開放など
「(58)「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。」のカウント数 	・現在、保護者を対象とした「子育て」に関する学習の機会は設けていない。個別面談や懇談会を通して相談の機会はあるものの、体系的に学ぶ場の設定には至っていない。今後は、保護者のニーズや園の現状を踏まえた学習機会の提供を検討していく必要がある。
「(59) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。」のカウント数 	・保護者が安心して相談していけるような環境を整えていく。 ・子育て経験ある人からの助言で悩み解決につながっている
「(60) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。」… 	—

「(61) 保育所だより・クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。」のカウント数 	—
「(62) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。」のカウント数 	・分からない
「(63) 第三者評価を導入し、施設運営に反映し ているか。」のカウント数 	・改善されていない部分もある
「(64) 地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。」のカウント数 	—
【保育所の現状を踏まえ、あなた自身が「これからもっとこうしていきたい」「こんな保育者を目指したい」と考えていることがあれば、記入してください。】	・保護者との関係の構築をしっかりと行い、こども達にとって安心して過ごせる環境作りを行っていく。また、こどもの成長を一緒に感じ、楽しんで保育に取り組んで行きたい。 ・過去にとらわれるばかりでなく、現在の状況や職員で積極的に意見しあいながら効率的に業務を進め、職員みんなが気持ち良く働けるようにしたい。子どもや保護者に通って良かったと思える園にしたい。外部講師の活動も取り入れて欲しい。（運動、空手、音楽、英語など） ・保育所の現状を踏まえ、これからは子ども達や保護者と共に、より良い保育所づくりを進めていきたいと考えている。保育士主導で進めるのではなく、子どもと対話しながら共に考え、主体的に活動できる保育へと発展させていきたい。 子どもが「明日も保育所に行きたい」と思えるような環境を整え、安全面に十分配慮しながらも、思い切り体を動かし、夢中になって遊べる保育を大切にしていきたい。また、指示的な声掛けではなく、子どもの思いを引き出す対話的な関わりを意識し、一人ひとりの育ちを丁寧に支えていきたい。 思い切り遊び、よく食べ、十分に休息をとる生活の中で、考えて遊ぶ経験も取り入れながら、４歳児には自分たちで園生活を営もうとする力を育てていきたい。 そして、子どもが楽しいと感じる保育は、保育士自身が楽しんでいることが大切であると考える。職員が安心して意見を出し合い、協力し合える環境を整え、共に成長できる保育者を目指していきたい。 自分達だけが子ども達と関わるのではなく、保護者も一緒に関わる機会を増やし園の良さを知ってもらいたい。

【考察】	

1. 支援対象について：充実した「内向き」支援と課題となる「外向き」展開
・強み（内向き）： 在園児や保護者に対する健康・安全の啓発、子育て相談、意見の汲み上げなど、内部に向けた個別支援と信頼関係の構築は高く評価されている。
・弱み（外向き）： 園庭や保育室の開放、地域住民との交流の場が不十分であり、地域行事への参加も不足している。
・展望： 園内の充実に留まらず、地域のニーズに応える開かれた子育て支援拠点へと外向きに展開していくことが求められる。

2. 運営体制について：個人の力量への依存と「組織的システム」の未成熟
・強み（個人）： 保育士個人の熱意や子育て経験を活かした的確な助言など、個人スキルの高さがうかがえる。
・弱み（組織）： 会議の長時間化や結論の不明確さ、計画の全体周知不足によるPDCAの未成熟さ、チーム全体の連携システムに課題がある。
・展望： 議題の事前共有、役割分担、確実な情報伝達の徹底により、個々人の努力を「チーム全体の実践」へとつなげる仕組みづくりが必要である。

3. 業務プロセスについて：「業務の効率化」による円滑な業務環境づくり
・現状の課題： 児童票や引継ぎ書類などの内容重複や、非効率ともいえる会議が、現場の業務負担感につながっている。
・生じている弊害： 業務の非効率さが、組織的なPDCAの循環や、新たな取り組みを行うための時間的・精神的な障壁になっている。
・展望： 書類の統廃合や会議の効率化を実行して現場の負担を軽減し、生み出された余裕を保育の質向上や新たな地域貢献へつなげる必要がある。